

「はい」「ええ」の使い分けに関する調査 ー漫画を使用したアンケートを通してー

金山泰子 二宮理佳

【要 旨】

本稿では漫画を使用したアンケート調査を母語話者 28 名を対象に実施し、「はい」「ええ」に関する認知・解釈を分析・考察した。

調査の結果、被験者は「はい」「ええ」を意識的に使い分けており、その捉え方は人によって異なるという傾向が浮かび上がった。

まず一般的に言われているように、「はい」と「ええ」の使い分けには、フォーマル VS インフォーマル、パブリック VS プライベート、親疎、上下などの対比が見られた。一方、先行研究では説明しきれない以下のような回答も数多く見られた。例えば、「はい」は「ええ」より強い同意・賛同というコメントである。また、使い分けの要因を「話者の気持ち」とした回答も目立った。特に「ええ」の選択要因には、「話者の気持ち」、「話者のイメージ」、「『ええ』が持つイメージ」という回答が多かった。また、「ええ」を「論理的思考・判断が働く前の感情的な反応」と捉えている回答も多く見られた。これらは先行研究では指摘されていない。

今回の調査結果および筆者らのこれまでの研究から、「ええ」の機能について再考察を試みた。その結果、「はい」と比べ、「ええ」は「Yes (肯定) + α 」の α の部分に多種多様な気持ちが含まれるということが明らかになってきた。「 α 」の部分は幅広く、使用者や使用場面・状況によって大きく異なり、先行研究や日本語教科書の説明では網羅しきれないため、さらなる考察が必要である。

【キーワード】

「はい」「ええ」の機能 使い分けの判断基準 意識の違い 漫画を使用したアンケート

1. はじめに

「はい」「ええ」はコミュニケーションにおいて不可欠かつ極めて使用頻度の高い表現であり、日本語教育においても初級段階で導入されている基本的な表現である。

しかし、教科書や日本語教育の現場においては、「はい」「ええ」とともに「Yes (肯定)」の意味であり、「ええ」は「はい」よりくだけた表現であるといった程度にしか説明がなされていないのが現状である。しかしながら、筆者らのこれまでの調査研究からも明らかのように、「はい」と「ええ」では聞き手に与える印象が大きく異なり、使い分けの意識も多岐にわたっている。が、「はい」「ええ」はその使い分けが微妙であるために、非母語話者が誤用運用した場合に、間違いであることが聞き手に対して伝わりにくい。例えば、上位者が下位者に命令・注意を与えた場合に、「ええ」で応答すると不適切であるばかりでなく、場合によっては相手に不遜な印象を与えることもある。結果、他者との関係を構築し、自己のアイデンティティを表明する上で不本意な

自分を表現してしまう危険を孕んでいる。したがって、学習者が適切に使い分けを理解・運用するための指導を考察する必要がある。

その足がかりとして、本稿ではアンケートを通して、母語話者の「はい」「ええ」に関する認知・解釈を分析・考察する。さらに調査の結果に基づき、「ええ」の機能について再考する。

2. 先行研究

応答詞の「はい」及び「ええ」は機能面において類似点も多い一方、明白な相違点も認められる。先行研究（北川 1977、日向 1980）では「はい」には「認知」、「ええ」には「同意」の機能があるとする。McGloin（1997）は北川・日向の研究を踏まえた上で、「はい」の機能を「談話・場面を進行させる」、「ええ」の機能を「参加・協調」と説明している（注）。富樫（2002）は、「はい」の機能を「提示された情報に対し、それに関連した半活性化情報が多数呼び出されたことを示す」と定義している。筆者らはこれらの基本的な定義をふまえた上で、「ええ」の機能に着目し分析を進めてきた。特に「ええ」の持つ待遇表現としての機能に焦点をあて、「ええ」は他者との関係を作り出し、自己のアイデンティティを表明する言葉使いの一つであるという視点に立脚し、研究を行っている。

まず、二宮・金山（2006）は「はい」のみ使える文例、「はい」「ええ」が共に使用可能な文例について分析し、「はい」との比較を通して「ええ」の機能について考察した。

その結果、「はい」「ええ」の使い分けには話者が共有する情報の度合いが深く関与していることが分かった。共有する情報の度合いは話者間の関係を決定づけ、親疎・待遇関係へと密接に関わっていると考えられる。「ええ」を使うためには話者間での情報の共有が前提となり、情報の共有がなければ同意することはできない。また同意表明のためには相手の発話内容を評価・判断する過程を経なければならない。したがって「ええ」は自己の主張・感情を積極的に表明する応答であり、「ええ」での応答は話者間の情報共有を表明し、相手に対し自らを同等な立場に位置づけると考えられる。故に不適切に「ええ」を使えば親近感・同等感を超えて相手に失礼な印象を与える可能性もあることを指摘した。

続く 2007 年には、学習者が「はい」「ええ」を適切に使い分けるための指導を考察する足がかりを見出すため、アンケート調査を実施し、非母語話者と母語話者の「はい」「ええ」に関する認知・解釈、使用状況を比較した。

調査の結果、以下のような対比が浮かび上がってきた。

- ① 非母語話者は母語話者と比べ、主に待遇面に着目して「はい」「ええ」を使い分けている。
- ② 母語話者はもとより、非母語話者にも、「はい」と「ええ」を使い分けることにより話者間の距離をコントロールしようという意識がある人もいる。
- ③ 非母語話者は母語話者に比べ、積極的な態度表明として「ええ」を使う認識は低い。
- ④ 非母語話者は母語話者に比べ、「ええ」の使用頻度が低い。

さらに、これらの結果をもとに「ええ」の機能について再考察を試みた結果、「ええ」にはかなりの幅があり、個々の意識によってその使い方・捉え方が異なるということがわかった。例えば、「ええ」には否定的なイメージ（例：威圧的・気取っている）もあれば、肯定的なイメージ

(例：謙虚・上品)もある。また「ええ」の使用によって、伝えようとする意味・イメージにも個人差がある(例：積極的な同意・肯定、納得できない際の反応)。つまり、話者と聞き手の間で「ええ」に対する意識やイメージが異なり、話者の意図するところとは違う意味が伝わったり、また不本意な自己表明となる場合もあると考えられる。

このような幅広さは、何を「ええ」と「はい」の使い分けの決定要因にするかに起因していると思われる。人によって、または状況によって、待遇や丁寧さや改まり度に意識を置くか、相手との関係を意識するか、話者の気持ちの表明を重視するか等々が異なるため、使い方・受け取り方に幅が出てくるのではないだろうか。

2007年の研究の結果からも、待遇表現の観点から日本語教育の現場において「はい」「ええ」の使い分けの指導を行うことは非常に重要であることが示唆されたが、教科書での説明も含め、現場でどのような指導が行われているかに関する詳細なデータがない。

そこで2008年には、現場の応答表現教育の現状を探るために、主だった初級教科書における「ええ」の出現状況(導入時期・意味説明・コンテキスト)を調査・分析した。調査の結果、「はい」「ええ」の違いについての適切な説明が明示されている教科書は少ないことがわかった。さらに指導上留意点すべきについて考察し、具体的な改善案を提案した。

本研究では、これまでの調査・研究から得た課題をもとに、母語話者を対象に漫画を使用したアンケートを実施し、「はい」「ええ」の機能・効果、使い分けの判断の基準、意識の違いについて調査を行った。

3. 調査の方法

3-1 調査の方法

調査方法は以下の通りである。

まず、3種類の漫画を選び、その一部の「はい」「ええ」が使用されている部分を数箇所空白にし、被験者(母語話者28名)にどちらが自然だと思うか直感や印象で回答してもらった。空白にした部分は一箇所を除き(電話を受けた場面)、すべて「ええ」が使われているが、「はい」も可能な部分である。同時に、なぜ「はい」または「ええ」を選んだか(選ばなかったか)についてコメントを付記してもらった。アンケートはメールで依頼、または対面で記入を依頼した。対面の場合は可能な範囲で聴き取りを行った。

次に、被験者のコメントを筆者らが2007年に行ったアンケートの分類項目にしたがって整理した。この2007年の調査では、「ええ」をどのような要因によって使い分けているかについて、「相手との関係」、「場面・場所・状況」、「話題」、「気持ち」、「性別」という項目を設け、○をつけるよう求めた。分析の際にこれらの項目に分類しきれなかったコメントについては「イメージ」、「その他」という項目を新たに設けた。今回の調査では、この項目にしたがって回答者のコメントを分類・整理した。例えば、「女性っぽいから」というコメントは「性別」、「先輩後輩である二人の人間関係から」というコメントは「相手との関係」に分類した。なお、「相手との関係」と「場面・場所・状況」の間の厳密な線引きは難しいので、この2つの項目においては重なりがあるという点は常に留意した。しかしながら、分析の便宜上、例えば、「刑事は偉そう」という

コメントは「相手との関係」に分類し、「取り調べ」というコメントは「場面・場所・状況」に分類した。

さらにこれらの項目別に分類したコメントの中からキーワードとなるものを抽出し、被験者の使い分けにおける基準について分析・考察を行った。

調査期間は 2008 年 7 月から 11 月である。なお、アンケートは資料 1 を参照されたい。

3-2 調査に漫画を使用した意図・目的

今回の調査方法に漫画を使用した意図は以下のである。

筆者らの 2007 年の研究では「はい」「ええ」の使い分けは幅広い判断基準のもとに行われていたということが明らかになった。

このアンケートでは、場面・役割を設定した会話の中で「はい」「ええ」どちらが自然であるか質問した。しかし、文の説明では回答者が想像で補いながら考えるので、各々のイメージが異なる可能性がある。例えば、「年配の人」、「通りがかりの人」、「先生と学生」などと標記しても、その人物のイメージ（服装、年齢、体型、等の外見）に個人差があるかもしれない。

そこで今回は漫画という媒体を選択した。漫画であれば、より具体的で多くの情報（場面設定・人間関係・心理等）を視覚的に伝えることができる。一方、人物の外見、表情、背景などの情報にもコントロールを加えることが可能になる。つまり、与えられる情報が詳細であればあるほど、個々人が想像により補う部分は少なくなり、被験者が得る情報は均一化されと考えられる。その結果、個々人が持つ「はい」「ええ」へのイメージや選択基準が、より明確になることを期待した。

なお今回使用したのは、「エースをねらえ」、「ブラックジャック」、「サザエさん」である。これらの漫画は比較的認知度が高く、人物のキャラクター、絵柄や人間関係、コンテキストがシンプルでわかりやすい。したがって、それらの要因が使い分けの判断にどう影響を及ぼしているかについて分析がしやすいことを期待した。「ブラックジャック」、「サザエさん」は、人物設定・文脈等がつかみやすいように一話完結のものを使用した。しかし、「エースをねらえ」は、被験者の負担(アンケートにかかる時間など)を考慮し、一部抜粋して使用した。漫画は資料 2 を参照されたい。なお紙面の都合上、「ブラックジャック」と「エースをねらえ」は空欄のあるページのみをのせたが、実際のアンケートに使用したものは「ブラックジャック」は 21 ページ（1 話分）、「エースをねらえ」は 8 ページである。

4. 結果と考察

まず、調査結果について全体的な傾向をまとめ、次に漫画の場面ごとに回答の傾向を述べる。

4-1 全体的な傾向

表 1 は、「はい」「ええ」を選択した理由について項目別にコメント数を示したものである。複数の項目にわたるコメントはそれぞれ 1 として数えた。またコメントの無い回答もあった。右端の欄に記したのは総数である。

表 1 「はい」「ええ」を選択した理由：項目別コメント数

	関係	場面・場所 状況	話題	気持ち	性別	イメージ	その他	総数
はい	1 8	2 9	0	3 7	0	6	5	9 5
ええ	2 3	1 0	3	6 3	4	1 9	8	1 3 0
合計	4 1	3 9	3	1 0 0	4	2 5	1 3	2 2 5

全体的な傾向としては、「気持ち」が最多で 100、次いで「関係」が 41、「場面・場所・状況」39、「イメージ」25、「話題」3、「その他」13 となっている。「気持ち」は総コメント数の約 45% を占めており、「関係」「場面・場所・状況」の項目と比較して 2 倍強になっている。また「関係」と「場面・場所・状況」を一つにしても、80 であり、「気持ち」の 100 より少ない。

また、「はい」においては、「気持ち」が 37 で最多、次いで「場面・場所・状況」が 29、「関係」18、「イメージ」6、「その他」5、「話題」0 となっている。また「関係」と「場面・場所・状況」を一つにすると、47 で、「気持ち」の 37 を上回る。

「ええ」においては、「気持ち」が最多で 63、「関係」が 23、「イメージ」が 19、「場面・場所・状況」10、「その他」8、「性別」4 となっている。また「関係」と「場面・場所・状況」を一つにしても 33 で、「気持ち」の 63 の半分に満たない。

特に「ええ」においては、「気持ち」の多さが目立つ。

また、「性別」を選択の理由とするコメントは、「はい」には皆無であるのに対し、「ええ」には少し見られる。「イメージ」についてのコメントは、「はい」の 6 に対して、「ええ」は 19 あった。

4-2 漫画の場面別の傾向

表 2 は場面別の回答結果である。縦は漫画の場面である。() には、場面や登場人物の関係を略記した。なお、下線はその人物の会話の一部が空白になっており、「はい」か「ええ」かの回答を求めた部分ということを表している。横は、回答のコメントを項目別に分類したものである。回答は複数項目にわたるものもある。また、コメントの無いものもある。回答者数の総数は、右端の欄に記した。

表 2

エースをねらえ「はい」

	関係	場面・場所・状況	話題	気持ち	性別	イメージ	その他	回答者数
空欄 1 (電話：お蝶)	1	2 3					1	2 4
空欄 2 (お蝶×父)	1	1	1	1			1	5
空欄 3 (ひろみ×藤堂)	5			1				6

エースをねらえ「ええ」

	関係	場面・場所・状況	話題	気持ち	性別	イメージ	その他	回答者数
空欄 1 (電話：お蝶)	1			1		1		4
空欄 2 (お蝶×父)	5	1		9		6	3	2 3
空欄 3 (ひろみ×藤堂)	9	3		7	1	2	2	2 2

ブラックジャック「はい」

* B J : ブラックジャック

	関係	場面・場所・状況	話題	気持ち	性別	イメージ	その他	回答者数
空欄 1 (女×刑事)	3	5		8			2	2 1
空欄 2 (女×B J *)	1			1 0				1 2
空欄 3 (女×B J)	3			1 2		1		1 8

ブラックジャック「ええ」

	関係	場面・場所・状況	話題	気持ち	性別	イメージ	その他	回答者数
空欄 1 (女×刑事)				6	2	1	1	7
空欄 2 (女×B J)				1 4			1	1 6
空欄 3 (女×B J)				8			1	1 0

サザエさん「はい」

	関係	場面・場所・状況	話題	気持ち	性別	イメージ	その他	回答者数
空欄 1 (サザエ×知人)	1			5		4		1 0
空欄 2 (知人×その夫)	3					1	1	6

サザエさん「ええ」

	関係	場面・場所・状況	話題	気持ち	性別	イメージ	その他	回答者数
空欄 1 (サザエ×知人)	5	4		3		7		1 8
空欄 2 (知人×その夫)	3	1		1 5	1	3		2 2

回答の傾向とコメントを以下に記す。なおコメントについては、回答者の記述をあえて原文どおり忠実に記載した。コメントに見られる微妙な表現や言葉遣いが、回答者の持つ「はい」「ええ」に対するイメージやそれぞれの使用意図を把握する上で、重要な鍵となると思われるためである。

4-2-1:「エースをねえ」

空欄 1

お蝶夫人(主人公ひろみの高校テニス部の先輩)が電話を受ける場面である。

日本語文型辞典によると、呼びかけや出席をとるために名前を呼ばれたときなどの応答として、「はい」は使われるが「ええ」は使わない。日向(1980)は、「あのう」「もしもし」などの言語表現の他、ドアをノックする音などの呼びかけ表現に対しては通常「はい」で応答し、「ええ」は使われないとしている。日向はこれを「ええ」には談話場面の成立に関与するような積極的機能がないために説明している(p.226)。北川(1977)は「自分もそう思う」と言えないからだとしている。「ええ」が使えない呼びかけ表現に共通して言えることは、呼びかけによって談話を設立しようとしてはいるが、「情報」と言えるほどの内容を伴っていない点である。つまり話者間の情報の共有はないと言える(二宮・金山 2006)。

回答は「はい」が24名、「ええ」が4名だった。電話の第一声なのでここは「はい」なのだが、この会話の前に名を尋ねられたはずだと想定したり、「親しさをこめて」、「ハイソな人は人に対して『ええ』を選びそう」等の理由から「ええ」と回答した人がいた。

空欄 2

ひろみとの試合を控えたお蝶夫人が、父の「勝ち方が問題だね」という言葉に対して答えている。

日向(1980)は確認文(「ね」を伴う文を含む)に対しては待遇的に「はい」「ええ」「うん」が使い分けられるとしている。また終助詞「ね」は聞き手との親しい関係のみににおいて許され、そのため「ね」を伴う先行文には「ええ」が現れやすいと説明している(p.223)。

回答は「はい」が5名、「ええ」が23名で、8割以上が「ええ」であった。「はい」と答えた人の理由は「相手との関係」、「気持ち」、「場面・場所・状況」、「話題」、「その他」がそれぞれ1名ずつだった。「ええ」と答えた人の理由は様々だったが、「気持ち」が最多で9名、「イメージ」が6名、「関係」が5名、「場面・場所・状況」が1名、「その他」が3名だった。

「ええ」の選択理由を「気持ち」にした回答が最多だったのに対し、「はい」の選択理由を「気持ち」とした回答は1のみだった。この結果からは、「ええ」の機能を気持ちの表明として捉えている人が多いということが伺える。従来の先行研究では、確認文には待遇、親疎に応じて「はい」「ええ」が使い分けられるとされているが、この結果からは「気持ち」が優先されていることが見てとれる。

また「はい」の選択理由に「イメージ」を挙げた人はいなかった。しかしながら、「ええ」を選んだ6名がその選択理由として「イメージ」を挙げている。例としては「偉そうな態度だから」、「お上品」などのコメントが見られ、「ええ」にはある独特のイメージがあると考えられる。

空欄 3

高校テニス部の先輩の藤堂（男性）に「暑いね」と言われて、後輩の岡（女性）が「ええ」と答える場面である。

回答は「はい」が6名、「ええ」が22名で、ここでも「ええ」が8割近くを占めた。「はい」と答えた人の理由は、「関係」5名、「気持ち」が1名だった。「ええ」の理由は様々で、「関係」が9名、「気持ち」が7名、「場面・場所・状況」が3名、「イメージ」が2名、「性別」が1名、「その他」が2名だった。

「はい」「ええ」とともに「関係」を理由とした回答が最多だった。「はい」の理由は、全て「上下関係」（例：「先輩だから」、「ここではたぶん先輩と後輩の関係にもどっているから」）のものだった。一方、「ええ」の理由は、「距離が近いから」（例：「親しみがあるから」、「先輩だから（先生やコーチなら『はい』」、「単なる師弟関係以上のものを感じる）」と、「距離が遠いから」（例：「もう既に2人の間に距離が開いてしまった」）という反対のものがあつた。

「はい」は待遇的に目下から目上への表現と捉えているのに対し、「ええ」は親疎だが、距離が近い、または遠いと正反対に捉えている人もおり、様々である。

4-2-2 「ブラックジャック」

空欄 1

看護師が無実の罪をきせられて、警察で医療ミスについて取調べを受けている場面で「ええ、注射をしたのはあたしです。でも……ちがいます！！あたしは いいえ……、うそです」と言っている。

先行文はないが、尋問されている場面なので質問部分が省略されていることは容易に察しがつく。真偽疑問文であることも応答から推測できる。また「～ね」で終わる誘導尋問である可能性もある。

真偽疑問文に対する応答としては、日向は「はい」「ええ」「うん」がいずれも使えて相手・場面などによって待遇的に使い分けられるとする。北川（1977）は、真偽疑問文の答えの可能性はもともと二つしかなく、質疑者はその二つの可能性の中の一つをとりあげてこれはどうかと尋ねているから、「はい」（承諾）「ええ」（同意）共に可能だとする。この解釈を踏まえ情報の点からさらに考察すると、疑問詞を伴う文に比べ、真偽疑問文は、答えが二者選択にまで絞られているという点で、話者間における情報の共有度は増しており、同意を示すだけの内容を伴った発話にもなり得、この理由により「ええ」の使用が可能になると考えられる（二宮・金山 2006）。

回答は「はい」が21名、「ええ」7名で、「はい」が全体の3/4を占めた。「はい」と答えた人の理由は、「気持ち」8名、「場面・場所・状況」5名、「関係」3名、「その他」が2名だった。「ええ」と答えた人の選んだ理由は、「気持ち」が6名、「性別」が2名、「イメージ」が1名、「その他」が1名だった。

「はい」が多く見られたのは、取調べ、公的な場、無実を強く主張する、等の状況・場面設定が影響していると思われる。回答者からもこれらの点が理由として挙げられていた。

空欄 2

整形手術を受けて美しく生まれ変わった看護師が、ブラックジャックに「おまえさんは、まだ復讐したいだろ あの病院に」と言われ、「ええ！ええ！」と答えるシーンである。この前者の「ええ」を問うた。「復讐したいだろ」という疑問文は一種の確認文・同意求め文等に類するものと考えられるので、「ええ」が出やすい。

「はい」が 12 名、「ええ」が 16 名だった。「はい」を選んだ人の理由は、「気持ち」が 10 名、「関係」が 1 名だった。「ええ」を選んだ人の選んだ理由は、「気持ち」が 14 名、「その他」が 1 名だった。どちらも「気持ち」という理由が多い点で共通している。

空欄 2 と空欄 3 は 1 つのコマの中で一人の人物が続けて発話している。そのため空欄 2 と 3 をセットとして（関連させて）回答している人が多く見られた。

空欄 3

空欄 2 と同じコマで、後者の「ええ」について問うたものである。

「はい」が 18 名、「ええ」10 名で、「はい」が全体の 6 割以上を占めた。「はい」と答えた人の理由は、「気持ち」が 12 名、「関係」が 3 名、「イメージ」が 1 名だった。「ええ」と答えた人の理由としては、「気持ち」が 8 名、「その他」が 1 名だった。

空欄 2 と同様、「はい」「ええ」とともに「気持ち」という理由が多い。また、空欄 2 と 3 を関連づけた回答がいくつか見られた。以下に例を挙げる。

空欄 2 で「気持ち」の理由で「ええ」、空欄 3 で「関係」の理由で「はい」を選んだ人（例：「思わず『ええ』と出てしまったが、医者に向って失礼だと思い、『はい』と言いなおした」）があった。

また空欄 2 で「気持ち」の理由で「ええ」、空欄 3 で「気持ち」の理由で「はい」を選んだ人（例：「とっさに『ええ』と言ってしまったが、その後に強い意志の表れで『はい』と答えた」）は、「ええ」と「はい」の使い分けに、無意志的（ええ）から意思的（はい）という気持ちの変化を見出している。

空欄 2 で「気持ち」の理由で「はい」、空欄 3 で「気持ち」の理由で「ええ」を選んだ人（例：「復讐の気持ちでとっさに出た言葉で『はい』、自制心が働いたため復讐は悪という考え方が生じ、病院自体に復讐したいのか疑問に思っ『ええ』」）は、「ええ」と「はい」の使い分けに、無意志的（はい）から意思的（ええ）という気持ちの変化を見出している。

空欄 2 で「気持ち」の理由で「はい」、空欄 3 で「気持ち」の理由で「ええ」を選んだ人（例：「復讐したいという強い気持ちの表れで『はい』と言ってしまったが、とはいえ世話になった病院への復讐をためらったため、最初のトーンが少し下がった感じの意思表示として『ええ』」）は、「はい」「ええ」とともに意思表示だが、「はい」のほうが「ええ」よりも強いと捉えている。

これらの回答結果から、「はい」と「ええ」は違っているという意識があるという点、また人によって「はい」「ええ」の捉え方が異なるということがうかがえる。

4-2-3 「サザエさん」

空欄 1

この場面はサザエさんと近所の知人と思われる女性が会話をしており、ヘチマ化粧水の効果を薦めたサザエに対して、女性が「そんなにいいんですの」と聞く。それに対してサザエが「ええ、私 毎年つけてますのよ」と応える。この女性の発話は真偽疑問文の形をとっているが、機能としては「ヘチマはいい」というサザエの意見を確認しているため、「ええ」が出やすい。

回答は「はい」が10名、「ええ」が18名だった。「はい」と答えた人の理由は、「気持ち」が5名、「イメージ」が4名、「関係」が1名だった。「ええ」と答えた人の選んだ理由は、「イメージ」が7名、「関係」が5名、「場面・場所・状況」が4名、「気持ち」が3名だった。

ここでは、「はい」「ええ」を合わせると11名が「イメージ」を選択理由に選んだ。これは、「サザエさん」はテレビでも長年放映されており、認知度が高いからだろう。実際、この漫画を「読んだことない人」はゼロだった。

この「イメージ」に関するコメントは、サザエさん自身のイメージ（例：「ハキハキした感じ」、「元気がいい感じ」）や、漫画全体の言葉遣い（例：「上品な言葉遣い」、「山の手の奥様風」）などが見られた。

空欄 2

サザエさんの近所の女性が夫に「ヘチマやめたのか」と聞かれ、「ええ」と答えた場面である。夫の質問は真偽疑問文の形をとっているが、庭のヘチマが枯れているのが描かれているので、確認文の機能を持っていると考えられる。したがって「ええ」が出やすい。

回答は「はい」が6名、「ええ」が22名で、「ええ」が全体の8割を占めている。「はい」と答えた人の理由は、「関係」が3名、「イメージ」が1名、「その他」が1名、「ええ」と答えた人の選んだ理由は、「気持ち」が15名、「関係」が3名、「イメージ」が3名、「場面・場所・状況」が1名、「性別」が1名だった。

「ええ」の選択理由を「気持ち」とした回答が最多だった。一方、「はい」の選択理由を「気持ち」にした回答は全く見られなかった。この結果からは、「ええ」の機能を気持ちの表明として捉えている人が多いということがうかがえる。「エースをねらえ」の空欄2でも述べたように、従来の先行研究では、確認文には待遇、親疎に応じて「はい」「ええ」が使い分けられるとされているが、この結果からも「気持ち」が優先されていることが見てとれる。

4-3 使い分けにおける判断基準のキーワード化・分類

以下に、被験者の使い分け基準に関するコメントの中からキーワードとなるものを抽出し、分類した表を示す。表中の「・」は同類のキーワード、「／」は異なる種類のキーワード、「⇔」相対するキーワードであることを示す。

表 3

	はい	ええ
相手との関係	上下／距離（遠）／職業／丁寧さ	親しさ／対等・同等／距離（遠⇔近）
場面・場所・状況	公の場／電話応答／フォーマル	距離（遠⇔近）／対面／カジュアル
話題		美・上品⇔世間話
自分の気持ち	強い肯定・意志・賛同／ 敬意・謝意／確信⇔不信／ 理性的・意識的⇔動揺	同意・共感／強調／プライド・余裕・ 自信・自慢／距離（遠）・自分の立ち位置（上げる）／感情的・動揺・とっさ／ 複雑・裏の気持ち
性別		女性的
イメージ	元気(キャラ)／鷗呑み／亭主閑白	キャラ・言葉遣い（上品⇔偉そう）
その他*		

*「その他」の項目に関してはコメントが多様でキーワードでは括れないため、後述の具体例を見られたい。

次いで、各項目の詳細について述べる。なお、回答者のコメントの後に（ ）で作品名と空欄番号を示した。（エース空欄 1）は「エースをねらえ」の空欄 1 である。（ブラック）は「ブラックジャック」、（サザエ）は「サザエさん」の略である。また、何も記述がないものは特定の場面ではなく、「はい」または「ええ」についての包括的なコメントである。

4-3-1 相手との関係

一般的に「はい」は「ええ」よりフォーマル・丁寧等と言われているが、この調査でも、「はい」は、「上下関係」、「距離の遠さ」、「職業（医師と看護師）」、「他人に対する丁寧さ」等が使い分けの基準として挙げられた。一方、「ええ」は、「親しさ」、「対等」、「同等（気安い・仲良し系など）」、「距離」等が挙げられている。しかしながら、「ええ」の「距離」という項目については、「人と人との距離が近い」（エース空欄 2）、「二人の間には単なる師弟関係以上のものを感じる」（エース空欄 3）等に対し、「距離が開いてしまった」（エース空欄 3）、「二人の距離を感じさせる」（エース空欄 3）等、相対するコメントが見られた。このように両極端のコメントが見られるということは、「ええ」に対する捉え方が人によって全く異なるということがうかがえる。

4-3-2 場面・場所・状況

「公の場・フォーマル」対「カジュアル」という対比においては、「はい」「ええ」の一般的な使い分け意識が見られる。また、「電話応答の第一声には『はい』（エース空欄 1）」というコメントが多く、「はい」の基本的な機能が意識されていることが見てとれる。しかしながら、「ええ」の「距離」という項目については、「なんとなく気まずい空気が流れているから」（エース空欄 3）等が見られた。これは二人の距離が開いていると感じたからであろう。それに対し、「やらしい

感じだから」(エース空欄 3)というコメントも見られた。これは「体育会系クラブの先輩後輩関係において、二人の距離が不適切なほど縮められている」と感じたからだと考えられる。前項と同様、「ええ」の捉え方は人によって異なり、「距離を縮める」、「距離を広げる」という両極端の回答が見られた。

4-3-3 話題

「はい」については特にコメントがなかったのに対し、「ええ」には「美しいものに関する話題には上品そうな響きの『ええ』」(サザエ空欄 1)、「近所の世間話には『ええ』」(サザエ空欄 1)、「日常会話には『ええ』」(サザエ空欄 1)等のコメントが見られた。「美・上品」と「世間話」という異なるタイプのキーワードが見られることから、ここでも人によって「ええ」の捉え方が異なることがうかがえる。

4-3-4 気持ち

4-1の項(全体の傾向)で述べたように、「気持ち」に関するコメントは最多で、総コメント数の約半数近くを占めている。これは、「はい」「ええ」の使い分けの判断として「気持ち」という要因が深く関わっているからだと言えるだろう。

今回の調査からは、「はい」は「敬意」「謝意」、「ええ」は「同意」「共感」のように、一般的あるいは先行研究で言われているものにとどまらず、幅広い回答が得られた。以下に着目すべき点について詳細を述べる。

(1)「ええ」: Yes (肯定) + α

筆者らは2007年に「ええ」にはかなりの幅があり、個々の意識によって使い方・捉え方が異なる、と述べた。また「ええ」は「はい」より積極的に自己の考え・スタンス・主張を出すのではないかと指摘した。さらに同調査からは、母語話者の中には、「『ええ』はYes(肯定)以外のものを含む」、または「『ええ』は完全にYesではない」という意識のある人がいることもわかった。つまり、「ええ」は「Yes(肯定) + α 」であり、「 α 」の部分に幅がある、と言えるのではないか。この点は、今回の調査のコメントにも表れている。以下に例を挙げて詳細を記す。

「まだ何か言いたげ」、「にごす感じ」、「ちょっとした気持ちのひっかかり」(以上サザエ空欄 2)、また「『でも』と続く場合は『ええ』が自然」、「『ええ』の直後より後に話すことを一番話したい」、「『ええ』の次の言葉ではなく、他に言いたいことがある」(以上ブラック空欄 1)、これらのコメントからは、「ええ」は単なる「Yes(肯定)」ではなく、「Yes(肯定) + α 」であるという意識がうかがえる。

更に複雑な気持ちを記したものには以下のようなコメントがあった。「世話になった病院への復讐をためらったため」(ブラック空欄 3)、「自制心が働いたため復讐は悪という考え方が生じ、病院自体に復讐したいのか疑問に思った」(ブラック空欄 3)「(先輩と)いけない関係にあるが、『学校ではあまり話しかけないで』という態度」(エース空欄 3)などである。

また「ええ」を使うことで、「プライド」「余裕」「自信」(以上エース空欄 2)「自慢」(サザエ

空欄 1) を表しているとしているというコメントもあった。「話し相手と同じレベルに自分を上げる意志が働いているため『ええ』を使った」(エース空欄 2)、「ハイソな人は人と距離をとるために『ええ』を使う」(エース空欄 2) というコメントが見られた。

(2) 「はい」(意識的・理性的) VS 「ええ」(感情的・動揺・とっさ)

「ええ」については「感情的」(ブラック空欄 1 と空欄 2)、「本心をつかれてついうっかり」(ブラック空欄 2)、「思わず出てしまった感じ」(ブラック空欄 2)、「とっさの同意」(ブラック空欄 2) などのコメントが見られた。また、この気持ちの項においては「はい」との対比のコメントが目立った。例えば「喜びのあまり『ええ』と言ったものの、敬語の『はい』に言いなおした」、「とっさの反応で『ええ』と言ったが、強い意思を表すために『はい』と言いなおした」、「思わず『ええ』と出てしまったが、医者に向って失礼と思い、『はい』と言いなおした」(以上ブラック空欄 2 と空欄 3) などのコメントが見られた。これらは、「ええ」を論理的思考・判断が働く前の生の感情、すなわち無意志的な気持ちを表すものとして捉えているのに対し、「はい」は意識的・理性的な気持ちをあらわすものとして捉えている。

(3) 「ええ」(適当) VS 「ええ」(意思)

「はい」(確信) VS 「はい」(不信)

「はい」(理性的) VS 「はい」(動揺)

「ええ」の選択理由の中にも、「はい」の選択理由の中にもそれぞれ正反対のコメントが見られた。

「ええ」のコメントの中で相反するものとしては、「女の子は他のことを考えていて適当に答えているから『ええ』と言っている」というコメント(エース空欄 3)と、「『ええ』の方が意思を感じる」(エース空欄 2)、「神頼みな気持ち」(ブラック空欄 3) というコメントがあった。このように「適当」と「意思」という相反するコメントが見られることは、人によって「ええ」の捉え方がまったく違うということを表している。

また「はい」のコメントの中にも、相反するものが見られた。「確実に強く思うときの『はい』」(エース空欄 2) というコメントに対して、「まだ相手を完全に信じていないから」(ブラック空欄 2) というコメントがあった。ここでは「確信」に対して「不信」というキーワードが見出され、やはり「はい」の認識に対する個々人の差が見てとれる。さらに「感情ではなく理性的に答えようとしている」(エース空欄 2)、「恋愛感情を悟られたくないので意識的に距離を置こうとしている」(エース空欄 3) というコメントが見られた反面、「動揺しているから」(エース空欄 2) というコメントも見られた。ここでは「理性的」「意識的」と「動揺」という相反するキーワードが見出され、やはり「はい」の捉え方の幅広さがうかがえる。

「ええ」のみならず「はい」の認識も個々人によって多様であることがわかる。

(4) 「はい」(強い肯定・意志・賛同) — 「ええ」(同意・共感)

先行研究では、「ええ」には同意・共感の機能があるとされている。今回の結果でも「ええ」

には同意・共感に関するコメントが見られた。しかしながら、「はい」にもこの機能を見出しているコメントがあったのは興味深い。さらに、回答者は、この「はい」の同意・共感は「ええ」の同意・共感よりも強いと捉えている。例えば、「はい」については、「力いっぱいな様子」(ブラック空欄 1)、「はっきりと事実を述べたい」、「他の意図やニュアンスを全く介在させたくない」(以上ブラック空欄 1) 等があったが、これらは強い肯定・意志・賛同を表しているコメントだと言える。

一方、「ええ」のコメントは、「強く同意しているのではなく、肯くような感じ」(エース空欄 3)、「ソフトな物言いで賛同」(エース空欄 2)、「相手の言葉を受け入れての受身の返事」(ブラック空欄 2) などがあった。これらは、「はい」における肯定・賛同より弱い。つまり、「はい」にも「ええ」にも同じ機能を見出しているが、その強さに認識の違いが見られる。

4-3-5 性別

「はい」については特にコメントがなかったのに対し、「ええ」は「女性っぽい」(エース空欄 3)、「女性的」(サザエ空欄 1)、「夫婦間で女性としてのジェンダーを表す」(サザエ空欄 2) などがあった。

4-3-6 イメージ

「はい」のイメージに関するコメントは「はきはきした感じ」、「元気がいい感じ」、「歯切れ良く返事」、「サザエは『はい』というイメージ」(以上サザエ空欄 1) などがあった。また「ちょっと頭が弱い子だから、鵜呑み」(ブラック空欄 2 と空欄 3)、「亭主関白なので、この家庭が」(サザエ空欄 2) というコメントも見られた。

「ええ」のイメージに関するコメントは、「女性の年齢と品から」(ブラック空欄 1)、「年配の人で、古き良き日本というイメージ」、「山の手の奥様風」、「全体的に上品な言葉遣いの会話(～ですの、～ますわ、～ますのよ)」(以上サザエ空欄 1)、「電話口でハイソな人は他人に距離をとる『ええ』を使う」(エース空欄 1) だった。これに対して、「気取っている」、「偉そうな態度に『ええ』って言葉がばっちり合いそう」(以上エース空欄 2) のように上品さをネガティブに捉えているコメントもあった。さらには、「お蝶夫人だから」(エース空欄 2)、「サザエのキャラ」(サザエ空欄 1) など、登場人物のキャラクターが選択において影響していることがはっきり見られるコメントも見られた。

「イメージ」については「ええ」のコメントは「はい」の3倍以上あった。このことから「ええ」の決定要因として「イメージ」が大きく影響していることがわかった。この「イメージ」は「上品」、「気どっている」というコメントに代表されるように、ポジティブに認識されるか、ネガティブに捉えているかの両極端であった。

4-3-7 その他

この項には分類項目に入らなかったものを列記する。

「はい」では、「直後に『いいえ』と言っているから『はい』の方が対応していると思う」(ブ

ラック空欄 1)、「同じ表現(「ええ」)が続くのを避ける」(ブラック空欄 3)、「目を見開いている」(エース空欄 2)、『『はい……』と言う感じ』(サザエ空欄 3)等のコメントが見られた。

「ええ」では、「末尾が…だから」(エース空欄 2)、「絵柄も判断基準」(エース空欄 3)、『『ええ』と言っていそうな顔だから』(ブラック空欄 2 と空欄 3)、『『ええ』は続けて入れてもうるさくない』(ブラック空欄 2 と空欄 3)、『『ええ』は『はい』ほどはっきりしていない』(サザエ空欄 1)、『『ええ』は音が出しにくい』などが見られた。

5. まとめと考察

以上の調査結果から、「はい」「ええ」の使い分けに関する意識について浮かび上がってきたことをまとめる。さらに筆者らのこれまでの研究、および先行研究と関連づけて「ええ」についての再考察を試みる。

5-1 調査結果のまとめ

- 1) 被験者らが「はい」「ええ」を意識的に使い分けしていることがうかがえる。
- 2) 「場面」「関係」においては、「はい」と「ええ」の使い分けについて、フォーマルVSインフォーマル、パブリックVSプライベート、親疎、上下などを基準としている回答が多く見られた。
- 3) 「ええ」についても「はい」についても相反するコメントが見られた。このことから「はい」「ええ」の捉え方は人によって異なることがうかがえる。
- 4) 「はい」は「ええ」よりも強い同意・賛同として捉えている人が多かった。
- 5) 「はい」も「ええ」も「自分の気持ち」に関するコメントが一番多い。つまり、「はい」「ええ」の使い分けの要因には、話者の気持ちが大きく関与していると思われる。特に「ええ」については、気持ちに関するコメント数が総数のほぼ半数に達しており、「気持ち」が強い選択要因になっていることがわかる。
- 6) 「はい」に比べ、「ええ」の決定要因には「イメージ」が大きく影響していることがわかった。
- 7) 論理的思考・判断が働く前の感情的な反応として「ええ」を選択した被験者が多く見られた。
- 8) 「ええ」は「Yes (肯定) + α 」で、その α の部分が人によって、また状況によって、違うと言える。

5-2 「ええ」の機能についての再考察

筆者らの 2007 年の調査結果では「ええ」の機能や効果に予想以上の幅があり、個々の認識にも大きな違いがあると指摘した。その幅広さは、人によって、または状況によって、待遇や丁寧さや改まり度に意識をおくか、相手との関係を意識するか、話者の気持ちの表明を重視するか等々から生じるのだらうと指摘した。今回のアンケート調査から、この指摘は適当だったことが明らかになったと共に、特に「気持ち」が重要な決定要因であることが浮き彫りになった。

また以前の調査同様今回も、「ええ」は「はい」より気持ちをのせるという特徴が認められた。「はい」も気持ちを表すが、それは賛同・肯定を強めるものであり、「ええ」のように複雑で多

様な感情をのせるようなコメントはあまり見られなかった。一方、「ええ」は「Yes (肯定) + α 」の α の部分に多種多様な気持ちが含まれるコメントが多かった。例えば、「エースをねえ」の空欄 3 に「ええ」を選んだ回答者のコメントには、「学校では話しかけないでほしい」という気持ちを述べたものがあつた。このように、時には「Yes (肯定)」の部分よりもこの α の部分の方が伝えたいメッセージである場合もあり得る。極端な例としては、この α の部分が「No (否定)」である可能性もあるのではないかと思われる。例えば 2007 年の調査では以下のようなコメントがあつた。「納得できないときに返事をしなければならない状況で『ええ』を使う」、「『はい』のみは完全に OK と解釈されがちなため納得できないときは『ええ』『ええ』で同調する姿勢を見せつつ、それ以外にも言いたいことがある」などである。

それに対して「はい」は基本的に「Yes (肯定)」の意味であると考えられる。「はい」にも「Yes (肯定)」の意味以外に、「信じてほしい」、「まだ完全に相手を信じていない」といった気持ちを含んでいるというコメントもあつたが、その数は「ええ」の比ではなかった。

日本語テキストでは一般的に「はい」「ええ」の使い分けの決定要因はフォーマリティと説明されている。また従来の先行研究では、「はい」は認知応答、「ええ」は同意応答という説明にとどまっている。しかしながら今回の調査からは、これらの先行研究や日本語教科書の説明では網羅しきれない回答が多く見られ、「はい」「ええ」の使い分けについては、さらなる考察が必要であると思われる。

6. 今後の課題

本研究は、筆者らのこれまでの考察結果を裏付けると同時に、今までの先行研究では指摘されていなかった「ええ」の特徴を浮かび上がらせることができた。しかしながら、「ええ」の機能の幅の広さについてはさらなる調査が必要だと思われる。

データ数を増やし、被験者やアンケートの形態を変えるなど、様々な角度から「ええ」の機能をさらに明らかにしていきたい。今回の調査の結果を踏まえて、今後の課題を以下に挙げる。

- 1) 同種のアンケートを非母語話者（中上級日本語学習者）、帰国生を対象に実施することにより、現場における応答表現の指導を考察する上での足がかりを見出す。
- 2) 「ええ」の使い方に年代差・性差・地域差・職業・職場環境・人間関係などが影響しているかについて調査する。
- 3) 日本文学作品の英訳版を使って、原文の「ええ」にあたる部分を空白にし、「ええ」と「はい」のどちらが適当かを問う。
- 4) 英語の文学作品の和訳（異なる翻訳者による数種）を比較し、「ええ」の部分の翻訳に違いがあるかを調べる。

7. おわりに

近年の国際化・多様化に対応した日本語教育の意義・目的は、情報の授受や意思の疎通にとどまらず、アイデンティティの表明および他者との関係構築を目指すべきものであると考えられる。

この二点と密接に関わっている言語行動が「言葉の使い分け」である。私たちは、相手との関係、状況、場面、自分の立場、話題等に応じ、様々な表現の使い分けを行っている（杉戸 1983）。このような使い分けは広く「待遇表現」と言われており（平林・浜 1988）、私たちは、良き人間関係の樹立、維持のため、待遇表現を使用する（水谷 1989）。言葉の使い分けは相手との関係を成立するだけでなく、話者自身の立場をも決定する役割がある。阪本（2001）は、言葉遣いは「個性とアイデンティティーの表明」であり、相手との関係を規定する「関係生成的な側面」を持つと指摘している。

「はい」「ええ」の使い分けも、そのような表現の一つである。今回の調査結果が示すように、「はい」「ええ」の使い分け意識は幅広く、いまだ説明しきれない部分を多く含んでいる。学習者に対して、この違いについて微細に言及することは、かえって混乱を招く可能性もあるだろう。しかし「はい」「ええ」の使い分けひとつとっても、話者の気持ちも違えば、受け取る側のイメージも違うということに着目させることは、「ことばの使い分け」に対する意識を高める上で有効だろう。そうすることにより豊かな言語感覚が養われ、言語の運用能力も向上していくのではないだろうか。また、自分の個性に合わせた言語活動を実現し、意識的・戦略的に自己イメージを表明する手段にもなり得るであろう。これらのことは、他者との関係を形成していく上でも有効だと思われる。

今後も他者との関係性構築の観点から、コミュニケーションにおける応答詞の重要性に着目し、「はい」「ええ」の使い分けについて調査・分析を進めていきたい。さらに調査結果に基づき、応答表現指導に向けての教育的視点を見出したい。

注

原文では、McGloin (1997) は北川・日向の研究を踏まえた上で、「はい」の機能を“making the next move in an interaction”(14)（談話・場面を進行させる）、「ええ」の機能を“participant alignment”(14)（参加・協調）と説明している。なお、日本語訳は筆者による。

参考文献

- 金山泰子・二宮理佳(2007)「『はい』『ええ』の使い分けに関する意識調査」
「ICU 日本語教育研究 3」 pp.3-31 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 北川千里 (1977)「『はい』と『ええ』」『日本語教育』33 号 pp.65-72 日本語教育学会
- 阪本俊夫 (2001)「現代の社会関係と敬語の可能性」『月刊言語』11 月 pp.34-42 大修館
- 杉戸清樹 (1983)「〈待遇表現〉気配りの言語行動」水谷修編『話し言葉の表現 3』pp.129-152 筑摩書房
- スリーエーネットワーク (1998)『みんなの日本語』スリーエーネットワーク
- 富樫純一 (2002)「『はい』と『うん』の関係をめぐって」定信利之編『「うん」と「そう」の言語学』pp.127-157 ひつじ書房
- 日向茂男 (1980)「談話における『はい』と『ええ』の機能について」『国立国語研究所報告』65 号 pp.215-229 国立国語研究所
- 平林周裕・浜由美子 (1988)『敬語 外国人のための日本語 例文・問題シリーズ 10』荒竹出版
- 二宮理佳・金山泰子(2006)「『ええ』の機能についての一考察—『はい』との比較を通して—」
「ICU 日本語教育研究 2」 pp.51-63 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 二宮理佳・金山泰子(2008)「初級教科書に現われる『ええ』についての調査報告—初級における応答表現指導についての一考察—」
「ICU 日本語教育研究 4」 pp.39-57 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 水谷信子 (1983)「あいづちと応答」水谷修編『話しことばの表現 講座日本語の表現 3』pp.37-44 筑摩書房
- McGloin, Naomi H. (1997) Hai and Ee : An Interactional Analysis. *Japanese/Korean Linguistics*. Vol.7

資料1 「はい」と「ええ」についてのアンケート

国際基督教大学 日本語教育課程

金山泰子 二宮理佳

私達は、日本語の「はい」と「ええ」について研究しています。今回は日本語母語話者がどのようにこの2つの表現の違いを認識しているかを探るため、このアンケートをお願いすることにしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。個人情報については責任を持って管理致します。以下の質問にお差支えない範囲でお答えください。

●年齢 20代 30代 40代 50代 60代 ●性別 男 女

●職業 会社員 教員(科目:) 自営業 その他()

●出生地 _____ ●育った場所(例:千葉県船橋市) _____

●「エースをねらえ」という漫画を知っていますか。

() 読んだことがある。 () 知っているが読んだことはない。 () 全く知らない。

●「ブラックジャック」という漫画を知っていますか。

() 読んだことがある。 () 知っているが読んだことはない。 () 全く知らない。

●「サザエさん」という漫画を知っていますか。

() 読んだことがある。 () 知っているが読んだことはない。 () 全く知らない。

これから読んでいただく漫画は一部空白になっています。その空白部分に「はい」「ええ」のどちらが入るのが自然だと思いますか。直感でお答えください。どちらも間違いではありません。また直感や印象でけっこうですので、なぜそれを選んだか(選ばなかったか)、コメントをお書きください。人間関係、性別、外見、キャラクターなどについて言及してくださってもけっこうです。

1 「エースをねらえ」

1 はい ええ

理由:

2 はい ええ

理由:

3 はい ええ

理由:

② 「ブラックジャック」

1 はい ええ
理由：

2 はい ええ
理由：

3 はい ええ
理由：

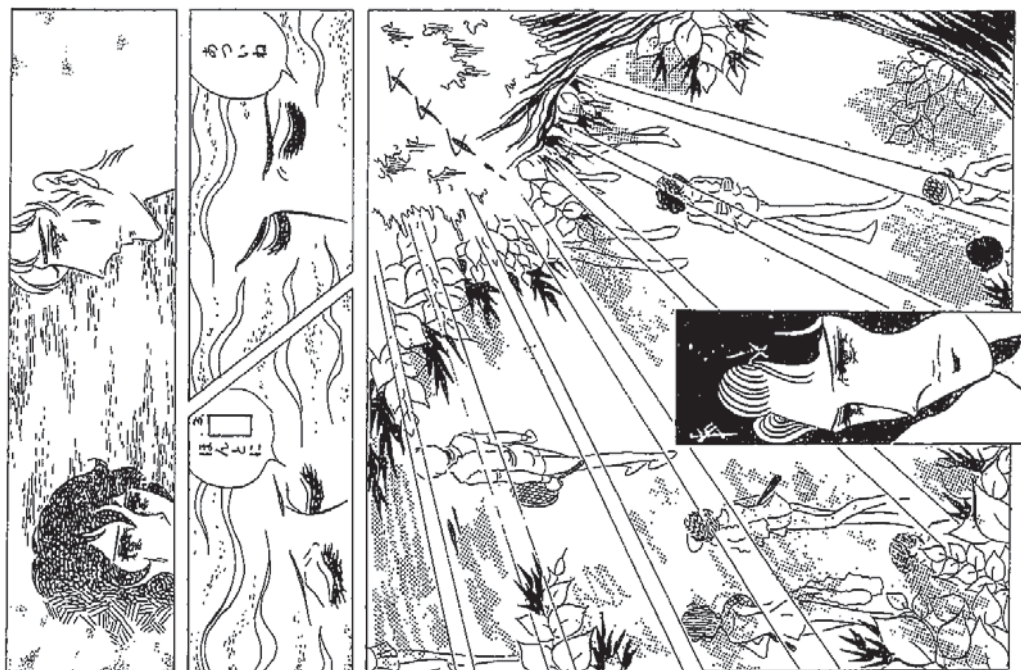
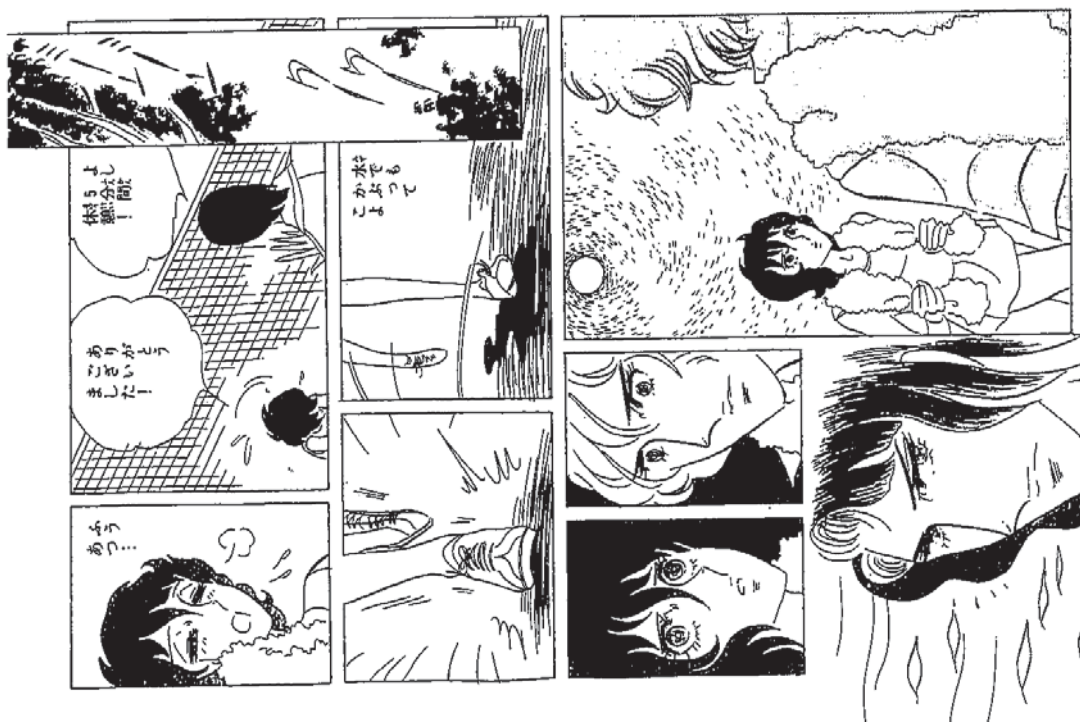
③ 「サザエさん」

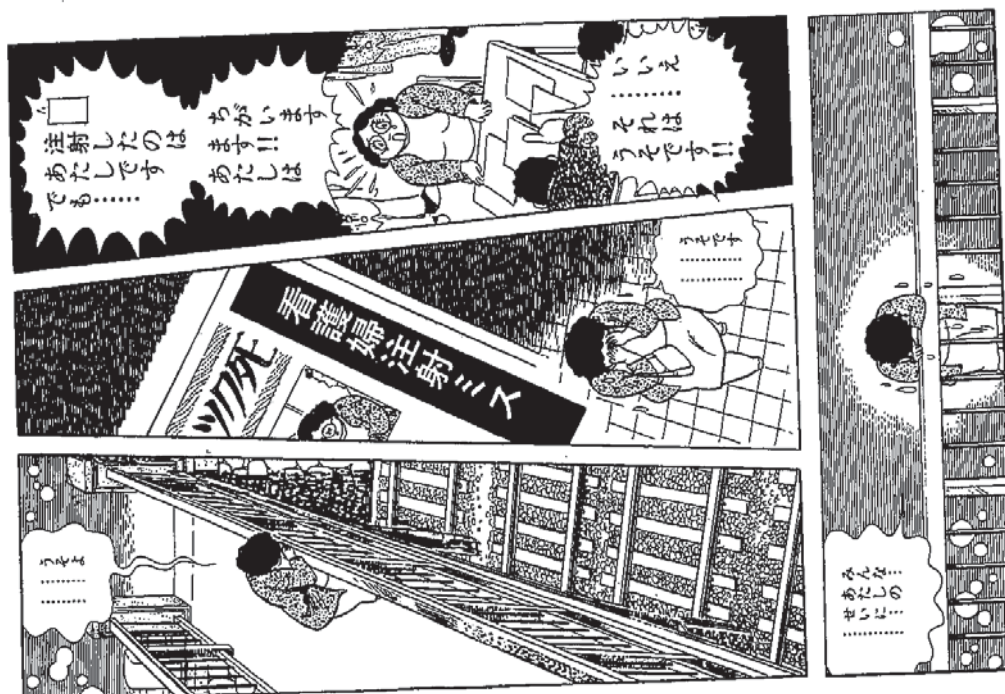
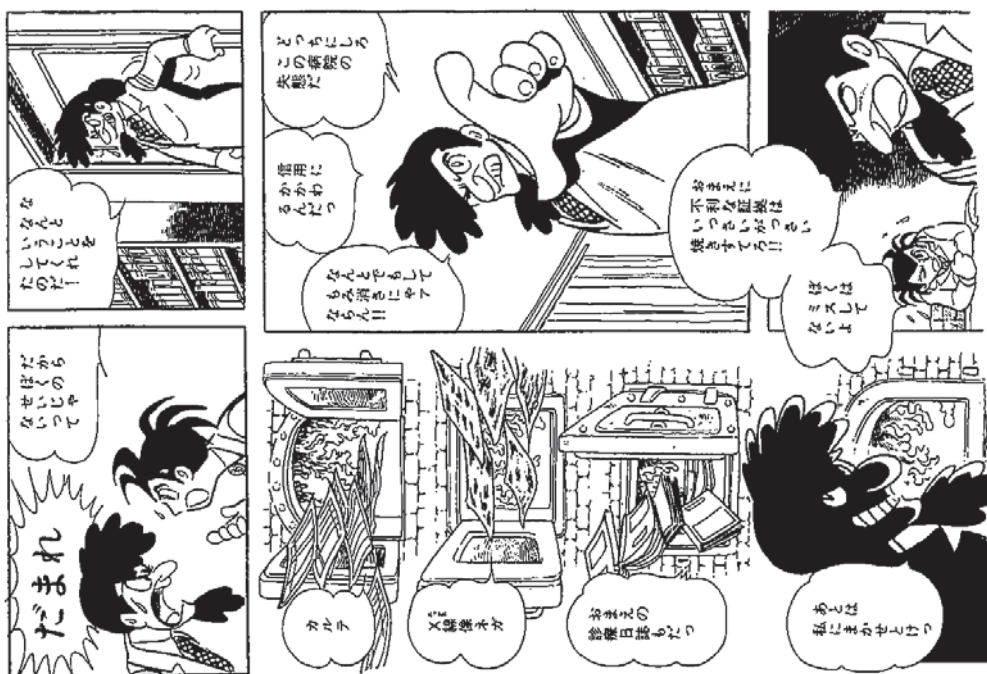
1 はい ええ
理由：

2 はい ええ
理由：

★ご協力ありがとうございました★

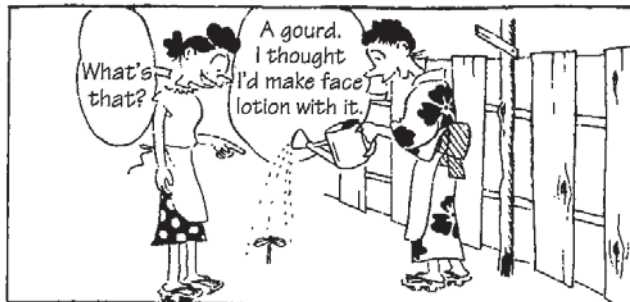








なんですか



ヘチマですの
けしょう水^{フェイス}を
とろうと思^{おも}って

ぜひおすすめ
しますわ

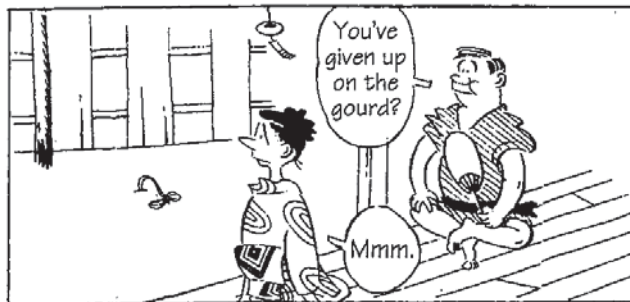


そんなに
いいんですの?

1. 私まいとし
つけてますのよ



ヘチマやめたのか



2. _____

* 英語は外国人の方のためで、
日本人の方は 英語にとらわれずに お答え下さい。

A Survey on the Difference in the Usage of “hai” and “ee” —Through a Questionnaire Using Comics—

Yasuko Kanayama, Rica Ninomiya

This paper examined the difference in the recognition of “hai” and “ee” through a questionnaire using comics.

The results indicate that the subjects (28 Japanese native) made a conscious decision about whether to use “hai” or “ee”.

We found general usages. On the other hand, many reasons for the use of “hai” and “ee” which cannot be fully explained by previous studies, were also found. For instance, we found that “hai” shows stronger agreement than “ee” does. We also found that with regard to the reason for choosing “ee”, “speakers’ feeling,” “speakers’ image,” and “image of ‘ee’” are prominent factors. Furthermore, the participants of the survey stated that “ee” is an emotional response that occurs before logical thinking and judgment take place.

Consequently, we found that as compared to “hai”, “ee” can mean “yes plus something more” ; this “something more” captures various feelings of a speaker.